

# HEINRICH SCHÜTZ

## Geistliche Chormusik : „Selig sind die Toten“

宗教的合唱音楽

死に逝く人びとは幸せである



*Selig sind die Toten,  
die in dem Herrn sterben, von nun an.  
Ja, der Geist spricht,  
dass sie ruhen von ihrer Arbeit;  
denn ihre Werke folgen ihnen nach.  
(Offenbarung des Johannes 14, 13b)*

今からのち、主のもとで死に逝く人は幸いである。

「そうだ!」と霊も語る。

彼らは労苦から解放されるであろう。

彼らの見事な業績は死後もついて行く。

(ヨハネの黙示録14, 13b)

„Selig sind die Toten“ (死に逝く人びとは幸せである) が5声のハーモニーで開始される。キーワードは Selig( 幸せ ) で、ドイツ語の意味は So,dass man nach dem Tod von alle Schwierigkeit und Bedürfnissen befreit.( 死後に全ての苦しみや困窮から解放されること ) である。柔らかく明るく澄んだハーモニーで、死後に永遠の命を受けて、幸福に満たされている感覚が象徴的に表現される。

冒頭の文章がハーモニーの同時進行で表現されているのに対し、„die in die Herrn sterben“ はポリフォニー (各声部の旋律が時間差で独立して動く様式) である。ハーモニーよりも各声部の音色が冴え、言葉に流れが生れ、語りの要素が増す。Schütz は4回この文章を様々なパターンで始めている。例えば男声から女声へ受け渡しやその逆、中声部から両端の声部など。

„Sie ruhen von ihrer Arbeit“ ( 死者は労苦から解放されるであろう ) は、聖霊 (der Geist) が語った言葉である。それは神の福音と同じであり、そこには霊性が漂っている。ハーモニーが聖霊に満たされ、神の霊的な命が躍動し、輝きを放っている。

## Geistliche Chormusik : „Das ist je gewißlich wahr“

宗教的合唱音楽

その言葉は確かに真実である



*Das ist je gewißlich wahr, und ein teuer wertes Wort,  
daß Christus Jesus kommen ist in die Welt,  
die Sünder selig zu machen, unter welchen ich der fürnehmste bin.  
Aber darum ist mir Barmherzigkeit widerfahren,  
auf daß an mir fürnehmlich Jesus Christus erzeugete alle Geduld,  
zum Exempel denen, die an ihn gläuben sollten, zum ewigen Leben.  
Gott, dem ewigen Könige, dem Unvergänglichlichen und Unsichtbaren  
und allen Weisen, sei Ehre und Preis in Ewigkeit, Amen  
(2.Timotheus 1,15-17)*

「イエス キリストが罪人を幸せにするためにこの世に来たと」言うのは

確かに真実であり、価値ある言葉である。

なぜなら私がその罪人の張本人だからです。

そのような私が憐れみを与えられたのは、イエス・キリストは、人々が今後彼を信じて永遠の命を得ようと努力しているのを規範にしようと、ま

ず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。

神よ、永遠の王、不滅の方、目に見えないお方、全能の神に

栄光と誉れが永遠にありますように。

(ティモテへの第IIの手紙1,15-17)

冒頭の Das ist je gewißlich wahr ( その言葉は確かに真実である ) と言う、パウロの体験から裏付けられた確固とした言葉を、Schütz は密度の濃い意志のあるハーモニー進行で描いている。

„Daß Christus Jesus kommen ist in die Welt“ ( イエス キリストはこの世に来られた ) から突然2分の3拍子の舞曲的なリズムが現れる。イタリアのマドリガルのスタイルが下地にあり、精気に充ちた音楽で聴く者を引き込んで行く。

„die Sünder selig zu machen“ ( 罪人を幸せにするために ) 以降からは、パウロが罪を意識したことで、神の寛容と恵みの深さやを知り、悔い改めたことが語られる。そのことに大きな意義があることを、Schütz は様々な声部を呼応させながら音楽で描いている。